

## 平成 30 年度 優秀卒業論文賞総評

優秀卒業論文賞選考委員会 委員長 児玉 充

### 1. 審査の方針と概要

審査は、推薦された卒業論文を形式と内容の両面から審査し、注記・参考文献の整備、論文としての体裁そして内容の卓越性を重視した。これらの審査方針に照らして、10 編が合格と判定された。

### 2. 優秀卒業論文 10 編の執筆者とタイトル（執筆者の五十音順）

- 稲葉健斗 「青果物直販事業における流通の課題と提言」 （秋川卓也ゼミナール）
- 大友菜摘 「戦前期日本におけるミッキーマウス受容の一側面 —村岡花子と天野雄彦・「家庭」を形成した思想—」 （服部訓和ゼミナール）
- 岡野翔 「日本におけるAD措置の考察 —関連する制度に着目して」 （飯野文ゼミナール）
- 上野大輔 「農家人口減少が稲作生産に与える影響の分析 —農家人口と米の需給の将来推計—」 （芝村良ゼミナール）
- 河合紗莉亜 「日本の産学官連携に関する一考察 —国立大学における大学発ベンチャー増加への取り組み—」 （高久保豊ゼミナール）
- 川畑夏野 「災害時におけるスマホ活用と人のつながり ～地域SNSの可能性」 （東るみ子ゼミナール）
- 君山拓良 「高齢者と若年者の交流による地域活性化に関する研究 ～栃木県那須地域を例に～」 （塚田典子ゼミナール）
- 澁谷義久 「日本国内の公共交通における課題と解決事例」 （相澤朋子ゼミナール）

野口明華 「プロジェクションマッピング技術誕生の歴史的背景」  
(小島智恵子ゼミナール)

森澤太一 「JR東日本の公共性と収益性」 (坂本義和ゼミナール)

### 3. 全体の講評

今回、10編もの多数の論文が優秀卒業論文賞として判定され、日本大学商学部のゼミナールの研究水準の高さを示すこととなった。これら10編の卒業論文は、いずれも研究論文としての体裁が整っており、優れた内容をもつものである。また、各専攻分野において旺盛な好奇心と問題意識をもち、今日的なテーマに取り組んでいる姿勢も評価できる。また、研究方法も、実証分析、フィールドワーク、歴史的分析、社会的分析など多様であって、人文・社会科学という学問の懐の深さを改めて認識させられた。

これら受賞論文は、論文要旨と講評が学部HPに掲載され、かつ、製本された論文が図書館に長く保管されることになる。後輩の学生諸君が、先輩たちの力作を閲覧し、研究への情熱を喚起され、日本大学商学部のゼミナールの伝統が受け継がれていくことを願ってやまない。